『ハロハロ』

こまつ　あやこ　著
講談社



母の誘いで始めたオンライン英会話で、のの花は担当講師のフィリピン人、ジョシュアに夢中になります。フィリピン人の義母を持つ女子、風羽とも親しくなりました。

ある日、二人は地域のイベントでフィリピン伝統のスイーツ、ハロハロを提供することが決まり、のの花はフィリピンの昔話の語り部をする大役にも抜擢されます。そこへ、ジョシュアが退職するとの知らせが…。

『僕の仕事は ごみ清掃員。』

滝沢　秀一　著
河出書房新社



ごみ清掃員とお笑い芸人をかけもちしている著者が正しいごみの分別や、ごみ清掃員が喜ぶきれいなごみの出し方、清掃員の苦労話などを紹介します。

また、ごみを捨てるのにお金がかかるということや、ごみからそれを出した人や会社の情報が分かることなど、著者の実体験をもとに語られるごみに関する話も興味深いです。

このリストは、２０２５年に出版されたなかから中学生のみなさんにおすすめの本を掲載しています。

品川図書館	北品川２－３２－３	TEL 3471-4667 FAX 3740-4014
二葉図書館	二葉１－４－２５	TEL 3782-2036 FAX 3782-9430
荏原図書館	中延１－９－１５	TEL 3784-2557 FAX 3784-8951
南大井図書館	南大井３－７－１３	TEL 3761-6780 FAX 3768-7976
源氏前図書館	中延４－１４－１７	TEL 3781-6273 FAX 5702-4190
ゆたか図書館	豊町１－１７－７	TEL 3785-6677 FAX 5702-4035
大井図書館	大井５－１９－１４	TEL 3777-7151 FAX 3777-4970
五反田図書館	西五反田６－５－１	TEL 3492-2131 FAX 3492-4995
大崎図書館	北品川５－２－１	TEL 3440-5600 FAX 3440-5604
大崎図書館分館	大崎３－１２－２２	TEL 3491-3430 FAX 3491-3291
八潮図書館	八潮５－１０－２７	TEL 3799-1414 FAX 3790-3442
大崎駅西口 図書取次施設 （おおさきこども図書室）	大崎２－１１－１ 大崎ウィズシティテラス２階	TEL 5487-6551 FAX 5487-6588

休館（所）日、開館（所）時間などは、各図書館・取次施設におたずねください。

このリストの書影は、各出版社の許諾を得て使用しています。

2026.10　発行

Let’s Read!

中学生



『やなやつ改造計画』

吉野　万理子　著
あすなろ書房

品川区立図書館

『こうしてぼくはスパイになった』

デボラ・ホプキンソン　著　　服部　京子　訳
東京創元社



１９４４年のロンドン。街には連日のように空襲警報が鳴り響きます。１３歳のバーティは、民間防衛隊の新人伝令係として、意気込んでいました。

ある夜、女の子に防空壕へ避難するよう呼びかけましたが、そのことがきっかけで１冊のノートに出合います。

バーティは謎めいた女の子と一緒にノートの暗号を解くことになりますが…。

『パッチーズ　ぼくらがつなぐ小さな世界』

佐藤　まどか　作
岩崎書店



中学２年生の柊は、ある日、クラスメイトと揉め、唯一サイズの合っていた雨雲色のフーディの左ひじの生地をすりきらせてしまいます。親に服を買う負担をかけさせたくない柊は、「エルボーパッチ＝ひじ当て」をすることを思いつきますが、百円で買えた三色セットのフェルトでは、左右色ちがいにするしかなく…。

『ぶたのしっぽ』

海緒 裕 作　嶽 まいこ 絵
講談社



中学２年生の豪太郎の趣味は編みぐるみ作り。小学校で人形が好きなことを馬鹿にされて以来、自分の趣味を隠して過ごしています。

職場体験でほとんど登校してこない同級生・篠田とペアを組み、少しずつ互いの思いを語っていくなかで、篠田が学校に通わなくなった理由も明らかになっていきます。篠田の考え方に勇気をもらった豪太郎は、文化祭で編みぐるみを展示することを決意します。

『消えた モナ・リザ』

ニコラス・デイ 作　千葉 茂樹 訳
小学館



誰もが知っている「モナ・リザ」の絵。

実は、この絵が有名になったのは、ルーブル美術館から盗まれたことがあるからなのです。犯人はすぐに捕まるだろうと思われました。ところがなかなか捕まらなかった。それはなぜか？

犯人はこんな人物に違いないという人々の思い込みが、真犯人の発見を遠ざけていく様子が描かれます。

『聞こえない羽音』

舟崎 泉美 作
小学館



感音性難聴と診断された花音は大好きなバドミントンを辞め、中学校では耳が聞こえるクラスメイトとの接し方が分からず孤立がちになります。自分のような境遇の人を「中途失聴者」と呼ぶことを知った花音は、彼らの集まる交流会へ参加します。

そこで出会った凛に誘われデフバトミントンクラブへ見学に行くと、音のないコートで夢中でプレーする一颯の姿がありました。

『ぼくたちは ＣｈａｔＧＰＴを どう使うか
１４歳から考えるＡＩ時代の学び』

東大カルペ・ディエム 著　西岡 壱誠 監修
三笠書房



ＣｈａｔＧＰＴを使ったことはありますか？なんでも答えてくれるＡＩです。変な質問でも怒ったりしません。では、宿題をやらせてみたら…？

良いところも悪いところも、使い方次第です。ＡＩが当たり前の時代に求められる向き合い方を、ＣｈａｔＧＰＴを通して考えてみましょう。

『てまりの ナゾほどき 帳　出島と秘密の紅い石』

荒川 衣歩 著
講談社



鎖国が続く江戸時代の長崎。１３歳の少女てまりと父が営む古着屋に、ある夏の日、はんてんが持ち込まれます。季節外れの商品なのに、すぐに高値で売れました。しばらくして、また同じようにはんてんが持ち込まれ、気になったてまりが、裏側の継ぎ布をほどいてみると、中には小さな紅い石が隠されていました。

『やなやつ改造計画』

吉野 万理子 著
あすなろ書房



「おれ、生徒会長に立候補することにした」光也が友人のヤナギに言ったところ、「やなやつ偏差値６０くらいのおまえが？」と言われてしまいます。

生徒会長の選挙に向けて準備をしていくうちに、自分だけでなく、周りについても考えるようになる光也。

果たして生徒会長になれるのか…！？

『ぼくのシェフ』

長谷川 まりる 作　西村 ツチカ 絵
くもん出版

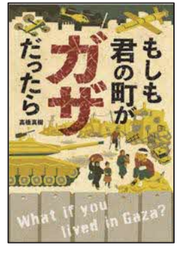


シャールの父親は国いちばんの料理人。シャールも小さい頃から料理の特訓をしていました。

ある日、慈善団体の活動でスープをふるまっていると、やってきた少年が突然スープにミルクを入れてしまいます。ひと口飲んだところ、おいしさに衝撃を受けるシャール。実はその少年にはある秘密があったのでした。

『もしも 君の町が ガザだったら』

高橋 真樹 著
ポプラ社



イスラエルとパレスチナの間で発生している「パレスチナ問題」。中でもガザ地区では毎日多くの命が失われています。

なぜパレスチナ問題は起きてしまったのか。そこには宗教をめぐる対立以外に他の国々の思惑も深く関わっています。「もし自分の町がガザだったら？」と考えると紛争にさらされている人々の暮らしが真に迫って感じられるようになります。